

国道2号宮島口渋滞対策社会実験について

高市 康寿¹

¹広島国道事務所 計画課 (〒734-0022広島市南区東雲二丁目13-28)

世界遺産「厳島神社」を擁する宮島は、中国地方を代表する観光地であり、国内外より数多くの観光客が訪れる。そのため、宮島へ渡るフェリー桟橋がある宮島口周辺は、駐車場を求める車両が集中し、国道2号まで車列が連なり渋滞が発生している。特に観光シーズンは、国道2号の渋滞は約10kmにも及び観光客はもとより、通過交通や地元住民に深刻な影響を与えており、対策が急務となっている。

本件は、このような状況を緩和するために実施した社会実験の概要とその結果を報告する。

キーワード 渋滞対策 TDM 観光 パーク&ライド

1. 周辺状況の概要

(1) 宮島について

宮島は日本三景にも数えられ、日本を代表する美しい景観を有する。海上に立つ鳥居で有名な厳島神社は、1996年に世界遺産に登録され、国内はもとより、海外からの観光客も多く2009年度は過去最高となる347万人が訪れた。

(2) 宮島の周辺状況について

a) 周辺道路の状況

宮島へ渡るには航路の他なく、自動車で来訪した場合、対岸に位置する宮島口周辺の駐車場を利用することとなる。

宮島口へは国道2号を経由しアクセスする。国道2号に平行して市道地御前対厳山線と広島岩国道路（有料）がある（図-1）。



図-1 宮島周辺の道路状況

b) 駐車場の状況

駐車場は、フェリー桟橋を中心として約600mの範囲に点在しているが、国道2号より海側に位置する駐車場（以下「海側P」という）が認知されやすく、また、桟橋に近く利便が良いので利用の集中が見られる（図-2）。



図-2 宮島口周辺の駐車場

2. 現状と課題

(1) 宮島口周辺の渋滞状況

観光シーズンには、図-3で示すとおり、駐車場待ちの車が国道2号まで連なり宮島口周辺の渋滞を引き起こす。

ピーク時の駐車場不足に加え、車両が海側Pに集中することにより渋滞に拍車をかけている。



図-3 渋滞要因



写真-1 宮島口渋滞状況

2008年11月23日(祝)には約10kmの渋滞が観測され、地域住民や通過交通に大きな影響を与えていた(写真-1)。2009年3月から高速料金休日値下げが始まることとなり、さらに状況が悪化することが懸念され、早急に渋滞対策が求められているところであった。

3. 課題に対する検討

(1) 渋滞対策の協議会の発足

このような状況の中、廿日市市を中心として各関係機関等が集まり2009年9月に宮島口渋滞対策社会実験協議会(表-1)が発足し、渋滞対策の取組が始まった。

表-1 宮島口渋滞対策社会実験協議会メンバー

所属	役職	備考
廿日市市建設部	部長	会長
広島県西部建設事務所廿日市支所	次長	
西日本高速道路(株)中国支社広島高速道路事務所	工務担当課長	
国土交通省・中国地方整備局広島国道事務所	副所長	副会長
宮島競艇施行組合	総務課長	
株式会社広電宮島ガーデン	常務取締役 営業本部長	
廿日市市観光協会	会長	
社団法人宮島観光協会	会長	
宮島口商店会	会長	
大野1区	区長	
広島県廿日市警察署交通課	課長	オブザーバ

(2) 渋滞緩和の対策

協議会では、渋滞発生が以下の要因によるものとし対策を実施することとした。

a) 要因

- ・観光シーズンのピーク時に駐車場の数が不足している。(紅葉シーズンの3連休中日2008年11月23日の実態に基づく試算では900台不足)
- ・海側Pに車両が集中するため、国道2号より山側に位置する駐車場(以下「山側P」という)に空駐車場がある時間帯でも駐車場待ちの車両が発生し、渋滞の要因となっている状況であり、駐車場の利用バ

ランスが悪い。

- ・駐車場を探すうろつき車両による交通阻害がある。
- ・通過交通車両が渋滞に巻き込まれ、渋滞長が長くなっている。
- ・更地別れ交差点で、岩国方面からの右折車両が滞留長に収まりきらず、後続車両の直進を阻害している。

b) 対策の検討

渋滞の要因を排除するための検討を行い、以下の対応策を実施することとした。

- ・パーク&ライド(以下「P&R」という)

宮島口への観光目的の車両流入の抑制と駐車場の台数不足解消を目的として、宮島口から離れた場所に臨時駐車場を設け、観光客があまり利用しない道路を利用しバスでフェリー桟橋まで観光客を送迎する(図-4)。

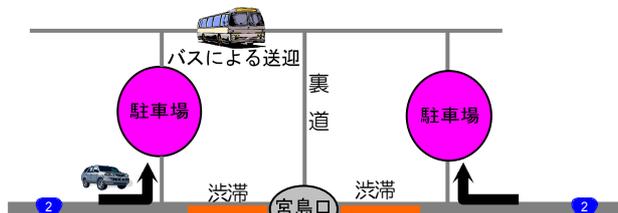


図-4 P&Rのイメージ

- ・駐車場の案内・誘導

空き駐車場に車両を適切に誘導することにより、駐車場の空待ち車両やうろつき車両を減少させ、周辺駐車場をバランスの良く効率的に利用する(図-5)。

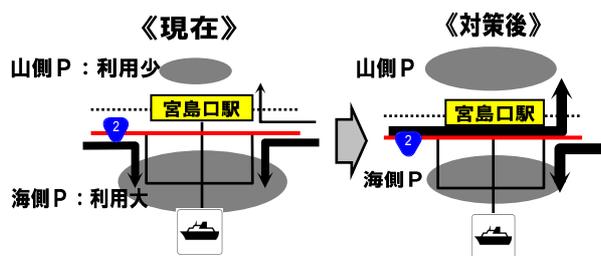


図-5 駐車場案内のイメージ

- ・通過交通の排除

廿日市ICと大野ICの手前で宮島口が混雑する可能性について揭示し、通過交通の自主的な高速道路への転換を促す(図-6)。



図-6 通過交通排除のイメージ

4.渋滞対策社会実験の実施

(1) 社会実験の実施

協議会での検討の結果、以下のとおり実験を実施することとした。

a)実験実施日

年間でも特に来島者が多い紅葉時期の休日及び正月時期を対象とした。

- ・2009年11月21日(土)～23日(祝)
(P&Rは最も観光客が訪れると予想される22日に実施)
- ・2010年1月1日(祝)～3日(日)
(P&Rは最も観光客が訪れると予想される1日に実施)

b)広報

社会実験実施に際し以下の広報を実施した。



図-7 広報提供の時期・手段と効果のイメージ

チラシポスター配布先

- ・中国地方道の駅、中国地方主要SA、錦帯橋、平和記念公園レストハウス
- 新聞広報・・・地方紙
- WEB・・・廿日市市役所、宮島観光協会、広島県警、広島国道事務所、ネクスコ西日本、広島県
- ラジオ・・・HFM、RCC(道路交通情報センター放送枠)、FMはつかいち

b)実施内容の詳細

- ・P&R
P&R用駐車場として、周辺の学校等に協力を頂き約1000台の駐車場を確保した(図-8)。
- 送迎はマイクロバスで行い概ね5分間隔で発車し、所要時間は15分から20分を目標とした。
- 料金は駐車料金・バス代とも無料とした。
- ・駐車場案内・誘導

広島側から来る車両と岩国側から来る車両が極力交差しないよう経路を設定した(図-9)。また、交差点や駐車場出入口前には、看板や誘導員を配置し、車両が途中で滞留しないよう空き駐車場までの誘導を実施した。特に、更地別れ交差点では、岩国方面からの車両が右折しないよう誘導を行うこととした。



図-8 パーク&ライドの実施状況



図-9 駐車場の案内・誘導の実施状況

- ・通過交通の排除
高速道路のIC周辺に看板を設置し、宮島口付近に用の無い車両の高速道路への転換を促した。

5. 取組の評価

(1) 渋滞状況の変化

渋滞の緩和効果を検証するため、実験実施前と実験実施中の比較を行った。渋滞の比較を行った各日の来島者数は表-2のとおりである。

比較対象とした、実施前の来島者数と実験中の来島者数に大きな差は見られなかった。2010年1月1日の来島者数が多くなっているが、大晦日の夜中から初詣客が訪れる為である。

表-2 宮島の来島者数

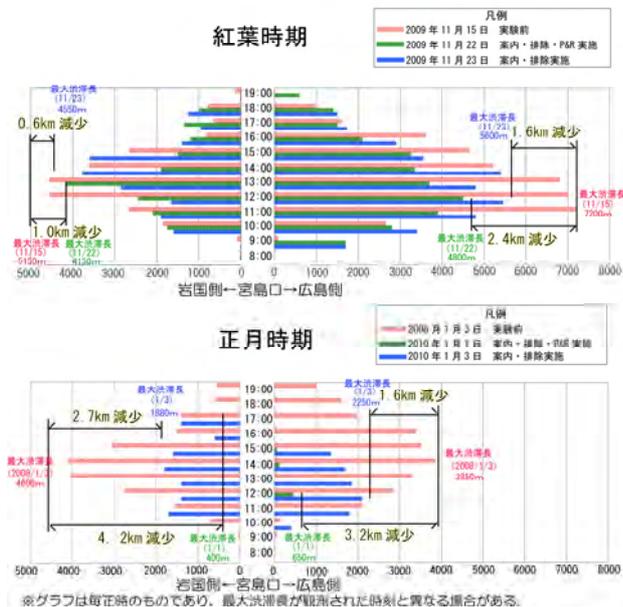
紅葉時期		
日にち	対策実施内容	来島者数
2009年11月15日	対策実施前	31337人
2009年11月22日	案内・排除・P&R	32704人
2009年11月23日	案内・排除	33827人
正月時期		
日にち	対策実施内容	来島者数
2008年1月3日	対策実施前	32664人
2010年1月1日	案内・排除・P&R	47574人
2010年1月3日	案内・排除	30073人

対策実施内容の「案内」は駐車場の案内誘導、「排除」は通過交通の排除、P&Rはパーク&ライドを指す。

実験前後の渋滞長を比較すると、紅葉時期最大2.4km、正月時期4.2kmの渋滞の短縮効果が確認された(表-3)。何れもP&Rを実施した日の方が短縮効果が大きかった。

表-3 渋滞長の比較

実験前・実験中の渋滞状況



(2)各取組の効果

a)P&R

利用台数は、2009年11月22日のべ481台、2010年1月1日のべ388台となった。2010年1月1日のアンケート結果では、P&Rのシステムについて「満足した」「やや満足した」と答えた人を合計すると95%となり、高い評価を受けた。今後の料金徴収については、駐車料金は一台あたり500円、バス料金は一人あたり100円であれば利用するという回答が最も多かった。

また、P&Rについて、試算により実施有無の最大渋滞緩和効果を検証した結果、広島側で11月22日が1280m、1月1日が720mという結果が得られた。

b)駐車場の案内・誘導

駐車場案内により、宮島地区内の空き駐車場に円滑に誘導され2009年11月22日は実験前の2009年11月15日に比べ山側Pの入庫台数が15%向上した。

また、更地分れ交差点(図-9の左に位置する)の右折率

は実験前の11月15日に比べ11月23日は38%、1月3日は58%低下しており、右折車両の滞留による後続車の直進阻害が減少し、渋滞緩和に寄与したと考えられる。

c)通過交通の排除

通過交通が高速道路に転換したことが確認できるデータが得ることが出来ず、効果がみられなかった。



写真-2 バスの利用状況



写真-3 駐車場の利用状況 H21. 11. 22 (阿品西小学校)



写真-4 駐車場の誘導の状況

4 課題と今後の取組

今回の社会実験において、P&Rや駐車場の案内・誘導については、効果が見られたが、通過交通の排除については効果が見られなかった。今後、有効な周知方法の検討等を行っていく必要がある。

また、今回はP&R駐車場として学校等の利用ができたが、継続的な運用に向けては、恒常的な駐車場を確保する必要がある。また、誘導員や看板、バスなど多くの人員や費用も必要である。今後、駐車場の確保や財源の確

保のためにP&Rの駐車料金、バス料金の徴収等を検討していくことが必要である。

6.まとめ

今回の実験により、観光による渋滞に対し、道路整備や新たな駐車場の整備など巨額の費用を使わずとも、現地の状況に応じたソフト的な対応を行うことにより、渋滞を緩和させることが証明することができた。但し渋滞の解消には至っていないため、今後も引き続き取組が必要である。今後は、PDCAプランを用いた効果的な対策を行っていくにより、更なる渋滞の緩和が期待できる。

謝辞：宮島口社会実験を実施するにあたり、事務局として主体的に社会実験の調整・実施に尽力された廿日市市を始め、宮島口渋滞対策社会実験協議会の委員各位、また、ご協力いただきました地元の皆様、関係機関の皆様に、深く感謝の意を表します。